

## 第14回インターナショナル サマーセッション 開催報告

2012年9月5日、6日の両日に、名古屋大学東山キャンパスにおいて、第14回インターナショナルサマーセッションが開催された。サマーセッションは、土木学会の国際活動の一環として、英語での研究成果の発表の機会を設けることにより、日本に滞在中の留学生・エンジニアを中心に、国際交流と相互理解を深める目的で企画された。1999年に第1回を開催して以来、単独行事として開催されてきたが、14回目となる今回は、初めて全国大会年次学術講演会国際セッションとして開催した。なお本セッション



写真1 開会式の様子

ムは、公益信託「土木学会学術交流基金」の助成を受けて実施された。

1日目は、オープニングセレモニーが長井宏平・留学生グループリーダー（東京大学）の進行により行われ、上田多門・国際センター長（北海道大学）の挨拶に続き、日本の土木の歴史、建設プロジェクト、防災に関する講演が行われた。

引き続き1日目の午後と2日目の午前は、国際セッションとして投稿された90編の論文が合計15のセッションで発表され、またICCHARM（水災害・リスクマネジメント国際センター）の留学生にも発表いただき、合計で94編の発表が行われた。国際セッション会場は各会場とも多数の聴講者があり、活発な議論がなされ参加者の間で有意義な情報交換ができたようだ。2日目の午後は、国際関連行事の海外ゲストと合同で名古屋市上下水道局の大曽根雨水貯留施設を見学した。

1日目の夜には、海外協定学協会や政府関係者も参加するウェルカムレセプションに一部の学生も合流し、一堂に会した懇親会が催され、参加者同士の活発な交流により、国際交流と相互理解はますます深められたと思われる。

今回、全国大会年次学術講演会国際セッションとしての開催は初めてであったが、おおむね好評であったと思われる。今回の反省点を改善し、来年はさらに活発なイベントとなるようにしたい。

（土木学会国際センター 柳川博之）

## 平成24年度 スタディー ツアーグラント報告

土木学会は学術交流基金を活用し、スタディーツアーグラント(Study Tour Grant, STG)として毎年海外協定学会の推薦を受けた土木技術者を日本に招聘している。今年度は土木工学を学ぶ大学生4名を招聘した。来日したのはMr. KIM Eui Sung(韓国)、Mr. Agung Rizky Fajri(インドネシア)、Ms. Siriporn Thongtaeng(タイ)、Ms. Hong Trinh Thuy(ベトナム)の4名である。日本滞在は9月3日から12日までの10日間であった。ツアーのスタートである土木学会全国大会の国際関連行事の一連のイベントに参加した。全国大会中に国際セッションとして実施したサマーセッションの発表者をはじめレセプションでは多くの留学生、ラウンド・テー



写真1 明石海峡大橋にて

ブル関係者、海外分会関係者と交流を持つことができた。全国大会後は、人と防災未来センターや明石海峡大橋、土木研究所など、防災に関する施設、機関の訪問を通じてわが国の社会基盤整備情報の収集を行った。

滞在期間中は、都内の高層ビルや東京スカイツリーなどを目の当たりにし、わが国の土木事業のスケールの大きさと土木技術の高さをじかに見て、また全国大会会場である名古屋大学でも土木国際教育の整備された環境を知り、たいへん強い印象と興味をもったようである。

今回はスケジュールに週末をはさんだことで余裕をもたせたが、若者としての興味や視点で、また土木工学の学生であ

ることから、土木構造物などを中心に都内の有名スポットを訪問するなど、日本滞在を十分満喫できたようである。將來、彼らが土木技術者としての活動の範囲を広げる契機になることを期待すると同時に、各国の協定学協会や海外分会と土木学会との交流のさらなる連携の強化につながることを期待する。

(土木学会国際センター 柳川博之)

## 平成24年 秋の叙勲等 受章者(五十音順、敬称略)

### 叙 勲

◎瑞宝中綬章

・尾崎 訥…名誉会員 78歳

(室蘭工業大学名誉教授)

・小野寺 駿一…名誉会員 82歳

(元運輸省港湾局長)

・高井 俊郎…フェロー会員 70歳

(元運輸省第二港湾建設局長)

◎瑞宝小綬章

・小浪 博英…フェロー会員 70歳

(元建設省土木研究所研究調整官)

・住田 陸快…フェロー会員 70歳

(元神奈川県土木部長)

・中田 慎介…正会員 70歳

(元建設省建築研究所国際地震工學部長)

・馬場 洋二…正会員 70歳

(元建設省土木研究所河川部長)

・船越 洋一…正会員 70歳

(元北陸地方建設局道路部長)

### 褒 章

◎藍綬褒章

・那須 充…正会員 68歳

(日本国土調査測量協会副会長)

## 女子中高生夏の学校 2012に参加

教育企画・人材育成委員会ダイバー

シティ推進小委員会(岡村美好委員長)は、今年も「女子中高生夏の学校

2012」(科学・技術者のたまごたち

へ) (主催…(独)国立女性教育会館、

日本学術会議「科学と社会委員会 科

学力増進分科会」「科学者委員会 男

女共同参画分科会)に参加した。今年

は、当小委員会岡村美好委員長が企画

委員として運営に携わった。

女子中高生夏の学校は、女子中高生

に科学技術の世界に触れる機会を提供

することを目的として2005年から



写真1 土木学会と土木技術者女性の会のスタッフ

開催されている、合宿形式の体験型プログラムである。保護者や教員向けのセッションも同時に開催されている。昨年は、

東北地方太平洋沖地震の影響により会場となる国立女性教育会館が使用でき

ず、規模を縮小して土木学会を会場として開催した。今年も例年通りの開催

となり、女子中高生118名、保護者・教員30名が参加し、2012年8月9

～11日の3日間にわたって、講演、実験教室、ポスターセッション、ワークショップなど

のさまざまなプログラムが実施された。

土木関連では、地盤工学会、土木技術者女性の会、全国土木系女子学生の会がブースを出展し、多くの女子中高生が見学に訪れた。また、今年も当小

委員会の委員の所属企業から、女性土

木技術者のポスターや参加者への景品の提供をいただいた。学生スタッフが企画したワークショップで作成する「才媛双六」では、20チームのうち2チームが土木

木に関係するテーマを選ぶなど、土木の仕事が女子中高生の理系選択の先にあることを実感できるものとなった。これらのポスターを含む夏の学校の様子は、当小委員会のウェブサイト (<http://committeesjsce.or.jp/education03/>)

においてもご覧いただきたい。

女子中高生夏の学校には当小委員会の発足時から関わってきた。女子中高生の理系選択は、女性土木技術者としてのキャリア選択の第一歩である。また、何より、若い世代の希望に満ちた笑顔に触れることは、私たちが活動を続けるための励みとなる。今後とも参画を続けた

いと考えている。

(教育企画・人材育成委員会 ダイバーシティ推進小委員会 幹事長 山田 菊子)

Lunch Café D. D.

開催される

教育企画・人材育成委員会ダイバー



図1  
ポスター

シテイ推進小委員会(岡村美好委員長)は、土木学会平成24年度全国大会(第67回年次学術講演会)開催期間中の2012年9月6日(木)に、Lunch Cafe D. D. (LCD D、ランチ・カフェ・ドボク・ダイバーシティ)を開催した。

土木分野のダイバーシティ推進に関心をお持ちの方に集まっていたとき、軽い昼食を食べながら気軽な情報交換を行っていたことを目的としたものである。実施にあたっては、連携する地盤工学会 男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会より「サロン・土・カフェW」の企画、運営のノウハウをご提供いただいた。

カフェには36名の方が参加した。男

性が35%、女性が65%である。男子も含めた6名の学生も含まれている。女性には20歳代が、男性は40歳代が多かった。

カフェではまず、家田仁 土木学会副会長の挨拶をいただいた。その後、「あなたにロールモデルはいますか」などを聞く「手挙げアンケート」などで緊張をほぐし、ファシリテータの主導のもと、グループごとに日々、考えていることなどについて、気軽な意見交換を行った。

普段は接することのない方々との会話を楽しめたとの感想を多くいただいた一方で、テーマや課題を設定しなかったために、内容が発散したとの指摘もいただいた。さらに、土木学会においては、「女性技術者の働きやすさの向上」のほかにも、多様な年齢層、分野の方々と協働の取組みにも目を向けるべきであるとの意見もあった。今後の活動の方向性を検討する際の視点として留意したい。社会コミュニケーション委員会の委員の参加もあり、開催の様子は早々に土木学会のFacebook pageで紹介していただいた。土木学会内での連携の可能性にも気がついたところである。

LCD Dの開催を通じ、顔を合わせ



写真1 参加者の集合写真

て話をするのが大切であることを改めて実感した。また、参加者と主催者がともに楽しめる時間を持てたことは、大きな喜びである。

開催にあたっては、地盤工学会、土木技術者女性の会中部地区、名古屋大学地盤工学講座のみならず、多くのアドバイザーや全面的な支援をいただいた。ここにお礼を申し上げる。

(教育企画・人材育成委員会ダイバーシティ推進小委員会 幹事長 山田菊子)